

いつも WJOG に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。  
異常なほどの暖冬も、終盤は寒い日や雨も重なって、桜の開花は過去数回しか外れなかった「400℃の法則」\* を外しての開花となりました。ここ数年は新たな出会いの季節である 4 月頭にはすでに葉桜になることもありましたが、本年は皆様の新年度のスタートを祝う桜を見に行くことができた方も多いのではないのでしょうか。

WJOG も各グループで新たな活動や臨床研究の準備を進めております。新しい時代に即した WJOG のあり方を探りながら、これからもよりよいがん治療を提供するための取り組みを続けてまいります。皆様におかれましては、変わらぬご支援のほど、どうかよろしく願い申し上げます。

編集担当者より

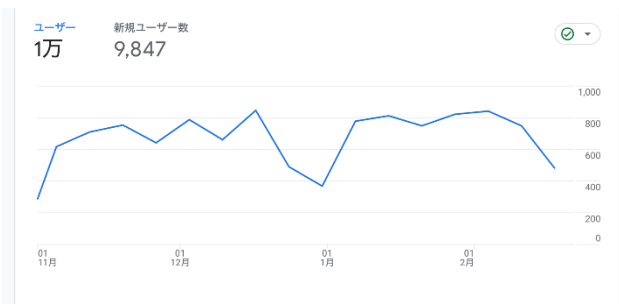
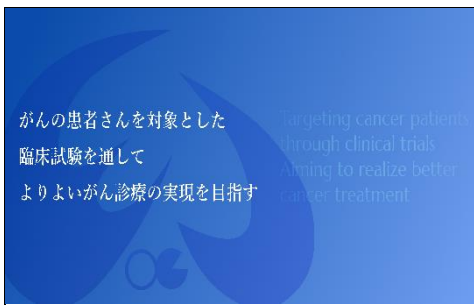
(WJOG 教育広報委員/がん研究会有明病院消化器化学療法科 下寄 啓太郎

\*「400℃の法則」とは、2 月 1 日以降の平均気温の合計が 400℃を超えると開花するというものです。



和歌山県橋本市の歩道の桜です。  
毎年この歩道がピンク色に染まるのが楽しみです。

## ホームページをリニューアルしました！



2023 年 11 月 20 日より WJOG ホームページをリニューアルいたしましたことをご報告申し上げます。  
今回のリニューアルでは、ホームページリニューアル委員会のメンバーが一丸となり、新たなホームページのあり方、コンテンツを 1 年以上かけて検討してまいりました。完成した新たなホームページでは、一般市民の皆様にも WJOG の活動や臨床試験をより理解して貰えるコンテンツとして「患者さんの声」「よくある質問」なども盛り込みました。リニューアルから数か月が経過して日本全国から高評価を頂き、沢山の皆様からアクセス頂いております。リニューアルに伴い、URL の変更はございません。ブラウザの「ブックマーク」「お気に入り」などにもぜひご登録をお願いいたします。今後とも WJOG 活動についてご支援くださいますようお願い申し上げます。

WJOG ホームページ URL : <https://www.wjog.jp/>



# 大阪市民公開講座を開催しました！



2024年2月4日に大阪歴史博物館 講堂で大阪市民公開講座「がんと就労について考えよう」◀治療も仕事も諦めない▶を開催したことをご報告申し上げます。今回の市民公開講座はアストラゼネカ社との共催で実施し、40名の方々にご来場下さいました。

がん治療の進歩は著しく、進行がんであっても長期生存例、長期寛解例がみられるようになってきましたが、このようながんサバイバーの就労に関する支



援や理解はまだ不十分と考えています。今回の市民公開講座では、いずれの演者の皆様もがんと就労に関する大事な情報をそれぞれの立場から、平易な言葉を用いてわかりやすくご説明頂きました。特に頭頸部がんサバイバーの村本さんの食道発声による講演は感動的でした。

今回の講座の対象者は一般市民の方々でしたが、75%以上の来場者の方が事後アンケートで高評価をつけて下さいました。昨今、Webでの参加や視聴を希望される方が多いですが、今回の市民公開講座もYouTubeで公開いたします。下記のQRコードより是非ご視聴下さい。

WJOG教育広報委員会では、このような市民公開講座を全国各地で再び実施できるように検討してまいります。

\*①-⑦の講演ごとに視聴できますので、QRコードからぜひご視聴下さい(YouTube)

2024.2.4 WJOG 大阪市民公開講座 2024

① 開会のあいさつ



② <講演1> 肺癌の進捗と長期生存時代における両立支援の重要性



③ <講演2> 医師の立場から



④ <講演3> 産業医の立場から



⑤ <講演4> 患者の立場から



⑥ WJOGとは(活動報告とお願い)



⑦ パネルディスカッション



WJOG YouTube チャンネル:<https://www.youtube.com/@wjog7297> のチャンネル登録をお願いします。

## WJOG15822G RETRIEVE

切除不能進行再発胃腺癌もしくは食道胃接合部腺癌に対する 3 次治療以降の Trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) + Ramucirumab (RAM) 併用療法と FTD/TPI 単剤療法のランダム化第 II 相比較試験

研究代表者 埼玉県立がんセンター 消化器内科 原 浩樹

研究事務局 埼玉県立がんセンター 消化器内科 高橋 直樹



近年、切除不能進行・再発の胃癌もしくは食道胃接合部腺癌において治療開発が進んでいる一方で、3 次治療以降の化学療法の有効性は十分とは言えません。少数例の検討ではありますが、3 次治療以降の標準治療の一つであるトリフルリジン・チピラシルと血管新生阻害薬であるラムシルマブの併用療法において良好な治療成績が報告されており、3 次治療以降において有望な治療の一つになりうると期待されています。しかし、これまでトリフルリジン・チピラシル単剤療法と直接比較した臨床試験はないため、WJOG でトリフルリジン・チピラシル+ラムシルマブ併用療法とトリフルリジン・チピラシル単剤療法の治療成績を直接比較する臨床試験を行っています。2023 年 1 月に本試験は開始され、2024 年 2 月末までに 81 例の登録があり、2024 年 7 月に登録終了予定です。

MEMO: 治癒切除不能進行・再発の胃癌に対しては、近年様々な薬剤が有効性を示し、患者さんに届ける事ができるようになりました。通常は 1 次治療→2 次治療→3 次治療→…と、有効性の示されている薬剤を切り替えながら治療を行っていきます。どの薬剤を選択するかは、それぞれの患者さんの状態や癌の状況、治療希望に応じて担当医と相談して決定されます。

## WJOG 16322G

高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する mFOLFOX6+ニボルマブ療法の第 II 相比較試験

研究代表者 愛知県がんセンター 薬物療法部 舩石 俊樹

研究事務局 愛知県がんセンター 薬物療法部 若林 宗広



高度腹膜転移胃癌の患者さんは、WJOG10517G 試験の結果より mFOLFOX6 が治療選択肢の 1 つですが、予後は未だに極めて不良です。本邦の胃癌ガイドラインでは 1 次治療として化学療法+ニボルマブ併用療法が推奨されていますが、化学療法に対するニボルマブの上乗せ効果を示した第 III 相比較試験から高度腹膜転移胃癌の患者さんが除外されていました。そのため、高度腹膜転移胃癌の患者さんにおいて化学療法にニボルマブを上乗せすることの有効性と安全性が不明です。本試験を行うことで高度腹膜転移胃癌の患者さんにおける mFOLFOX6+ニボルマブ療法の有効性と安全性を確認し、より有効な治療を患者さんに届けられることを期待しています。本試験の臨床現場における重要性を広く発信し、予定期間内に症例集積終了となる

## WJOG 行っている臨床試験の紹介！ ※登録受付中

ことを目指します。高度腹膜転移胃癌の患者さんへ速やかにエビデンスを届けられるように引き続き全力を尽くしてまいります。

MEMO:HER2 陰性胃癌の1次治療では、化学療法に免疫チェックポイント阻害剤であるニボルマブを併用する治療法が標準治療とされていますが、この治療法の有効性を調べた臨床試験では、腹膜播種が多数ある患者さんや、食事が取れない患者さんなど、状態の不安定な方は参加できなかったという経緯があります。このような患者さんに対しても、WJOGは臨床試験を実施して最適な治療法の検討を議論しています。

### WJOG 15922G PROCEED

CyberOncology®を用いた切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ併用化学療法の前向き観察研究  
研究代表者 広島大学病院 がん治療センター 岡本 渉 ・ 一宮西病院 腫瘍内科 松本 俊彦  
研究事務局 神奈川県立センター 消化器内科 古田 光寛



WJOG15922G 研究事務局  
古田 光寛  
神奈川県立がんセンター  
消化器内科

切除不能進行・再発胃癌に対し近年化学療法+ニボルマブ併用療法が標準治療となりました。しかしながら臨床試験に参加できる患者は全身状態のよい患者に限られており、実臨床との乖離が存在します。本試験では化学療法+ニボルマブ併用療法が実臨床で投与される患者さんを対象に、その有効性および安全性を評価します。また本試験では臨床データの収集をCyberOncology®を用いて行うことが特徴的といえます。同システムは実臨床データを効率的に収集することを目的に開発され、その利便性を評価することも本試験の目的としています。2024年2月末時点で45例の登録がなされており、今後CyberOncology®の利用が広がるよう、本研究を進めてまいります。

MEMO:本研究の特徴は、CyberOncology®を用いて電子カルテから効率的に臨床データを収集・抽出し、質の高いリアルワールドデータ(臨床試験ではなく、日常臨床での患者さんの治療に関連したデータ)を蓄積することができるか?を調べている点です。このような取り組みが成功すれば、より効率的かつ高品質のデータが利用可能となり、治療開発の一助になることが期待されています。

# 寄付のお願い

WJOG が生まれて今年で 23 年目になりました。この間、がん患者さんを対象とした臨床試験を通してより良いがん診療の実現を目指し、沢山の臨床試験を実施してまいりました。これまで実施した臨床試験の結果は国内外の学会や学術誌で全て公表され、大きな反響を得てまいりました。また、公表された臨床試験の多くが「がん治療ガイドライン」の科学的根拠(エビデンス)として引用されています。WJOG の臨床試験は、今の医療・目の前の診療に役立っています。

このような意義のある臨床試験、質の高い臨床試験を実施していくためには、多くの患者さんに参加して頂くことが必要です。また、その患者さんを診療する医療者や、データを集めて整理しデータを解析するスタッフなど、沢山の人的資源・膨大な金銭的資源が必要です。

WJOG が臨床試験を実施する場合、製薬企業からの資金援助で実施している試験も複数ございます。しかしながら、本当に重要な医学的課題を解決していくためには、製薬企業の利害に関わらない資金を得て、臨床試験を実施していく必要があります。

WJOGがこれからも将来のがん医療に役立つ臨床試験を実施していくためには、市民の皆様からの寄付が必要です。これまでWJOGを支えて頂いたことに感謝いたしますとともに、引き続きのご支援のほど何とぞ宜しくお願い申し上げます。

WJOG役員一同

## ご寄附の方法

クレジットカードからのお振込みの場合

WJOG の WEB サイト <http://www.wjog.jp> または、下記の QR コードからアクセスください。

郵便振替用紙からお振込の場合

口座名称 特非)西日本がん研究機構寄附口  
口座名称(か) トクヒニシホガンケンキウキョウカチ  
口座番号 00900-4-274461

銀行からのお振込の場合

銀行名称 ゆうちょ銀行  
口座名称 特非)西日本がん研究機構寄附口  
口座名称(か) トクヒニシホガンケンキウキョウカチ  
店名(店番) 0 九九(せ らいけい)店(099)  
預金種別 普通  
口座番号 0274461



寄附に関するお問い合わせ先

WJOG 事務局 TEL:06-6633-7400 E-mail:wjog@wjog.jp